

様式第7号（第21条関係）

番 号
令和6年6月30日

佐賀県県民協働課長 様

住 所 東京都中央区銀座4-13-19銀林ビル4F
団 体 名 認定NPO法人キープ・ママ・スマイリング
代表者職・氏名 理事長 光原ゆき
電 話 番 号 03-6822-5371

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和5年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

令和5年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

1 団 体 名 : 認定NPO法人キープ・ママ・スマイリング

2 事業実施期間 : 令和5年4月1日 から 令和6年3月31日

3 事業の背景（※事業計画書から転記）

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

①付き添い生活応援パック無償配布事業
この事業は10日間以上お子さんの入院に付き添っている家族に付き添い生活に必要な物資を届ける活動です。2020年10月～2022年3月末の実績では4,000名に提供しており、2023年度は3,000名を目標に掲げています。全国を対象としたものですが、過去のデータでは九州地区からの申込みが特に多く、今年度も佐賀県内に在住する家族にも数多く送付することが期待されます。また、この事業では食品メーカーをはじめ、さまざまな分野の企業の協賛品を同梱しており、それが企業の商品PR、イメージアップ戦略などにも役立っています。今年度は、佐賀県の企業にも積極的に協力を呼びかけ、他県の企業のような便益を図りたいと考えています。

②食支援事業（お弁当deスマイリングin佐賀大学病院）を核とした地域づくり
県内全域から入院してくる子どもに付き添っている家族に、地元旬の食材を使ったお弁当を提供することにより単に空腹だけでなく、その心も支える効果があることがわかっています。今年度は4回の実施を計画し、延べ人数で120名の家族を支援します。また、この活動にかかわる地域の人々に病気の子どもとその家族の存在や状況を知ってもらえる機会にもなり、地域における助け合い（共助）の意識を醸成することにも役立つことから、今年度も地域への支援の輪を少しずつ広げ、佐賀県における助け合い・支え合いの地域づくりに貢献していきたいと思っています。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

①付き添い生活応援パック無償配布事業
緊急コロナ禍支援策として2020年10月より開始した「付き添い生活応援パック無償配布事業」は、2023年度も順調に配布数を伸ばし、全国の2500家族以上に応援パックを届けることができました。応援パックを受け取った人の満足度評価の平均は5段階評価の4.67でした。
佐賀県内の病院への実績
佐賀大学医学部附属病院 12件
NHQ佐賀病院 2件
唐津赤十字病院 1件
佐賀整肢学園こども発達医療センター 1件

②食支援事業（お弁当deスマイリングin佐賀大学病院）を核とした地域づくり
私たちは、昨年度から引き続き、佐賀大学医学部附属病院へ、市内の結婚式場のシェフが調製したお弁当や市内の飲食店が調整したお弁当を6月～毎月20～25名 合計245名に、当団体のスタッフが届けるという地域を巻き込んだ活動を行いました。高度医療を提供する同センターは、佐賀県における小児中核施設として県内全域から重症の病児を受け入れています。家族の中には、病院まで遠くて通うことができず小児病棟に泊まり込んで長期に看病している人も少なくありません。新型コロナウイルス感染症が収束した状況でもなお、小児病棟では外出、面会をはじめ、さまざまな行動を制限される生活が続いており、病児と家族は心身ともに疲弊しています。このような状況に置かれた家族に定期的にお弁当を差し入れることは単に空腹だけでなく、心を支える大きな効果も現れています（下記「受益者の声」参照）。

・付き添い入院は少なからず、ストレスや気疲れはつきものですが、非日常のような式場の豪華なお弁当で幸せな気持ちになりました。とってもおいしかったです！付き添い頑張りましょう！と再度感じました。ありがとうございました。

・コンビニ飯をコソコソ食べる毎日でしたが、私達を応援しようと思って、提案してくださる方、お弁当を作ってる方、運んでくれる方たくさんの方が動いてくれている事に感動し、泣きそうになりながら、美味しくいただきました。しかもお弁当の中身も豪華で久しぶり栄養をいただきました。ありがとうございます。これからもどこかの誰かのためによりしく願います。

・毎日の食事は予算を決めつつ、身体を動かす事が減る付き添い生活では自身の摂取カロリーにも配慮しつつ、空いた時間にサッと食べるという生活でした。コンビニは便利ではありますが、味気なく、どれも飽きている頃でした。そんな中、キープ・ママ・スマイリングさんからの提供で美味しいカツサンドを頂きました。外食でも普段味わえないような熟成されたお肉とソースのハーモニーが楽しめる本格的なカツサンドでした！さらに、甘いさくらんぼも頂き、心もお腹も満たされて、非日常が味わえる楽しい食事となりました。このような活動をされると聞き、付き添い生活をしている方を笑顔にして下さり、同じ病室のママともおいしかったね～と疲れを忘れさせてくれる幸せなひと時でした。大変感謝しています、ありがとうございました！

②佐賀から広がった社会像（該当する活動のみ）

②地域住民・企業を主体とした付き添い家族への食支援「佐賀モデル」を確立したことをきっかけに、地域の小児病棟を地域で支え合うモデルの全国展開、食支援に取り組む仲間づくりと小児病棟における付き添い食提供の普及を目的とし、「小児病棟付き添い食支援連絡会えんたく」を設立し、食支援活動に関する情報交換、運営ノウハウの共有のほか、医療機関や一般社会に向けての啓発活動に取り組み始めました。

5 寄附金活用事業実績 : (別記1)

6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)

7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記2) 次年度繰越活用見込み

○次年度に繰り越した寄附金の活用見込み

事業名	具体的な事業内容 (予定) ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所 (見込み)	事業費の 支出見込み額 [単位：円]	うち寄附金 活用見込み額 [単位：円]
「付き添い生活支援」 事業 ※付き添い生活応援 バック以外	①病気の子どもとの面会へ通う家族への支援 ②10日間以上病院に入院するお子さまに面会する家族 ③面会に通うために必要な食品・生活用品、または、交通費支援	①令和6年10月～令和7年3月 ②東京オフィスから全国の病院へ	6,195,000	6,195,000
「付き添い生活応援 バック無償配布」事業	①病棟から出られない長期入院の付き添い者の心身の支援 ②10日間以上お子さんの入院に付き添っている家族 ③付き添い生活に必要な物資（食品、衛生用品、生活用品等）を届ける	①令和6年4月～令和7年3月 ②東京オフィスから全国の病院へ	11,062,000	2,120,716
計			17,257,000	8,315,716

(別記3) 寄附金活用額

【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)		11,349,682
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A	10,561,104
	本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	10,479,299
	前年度控除額(県事務経費)還付分	81,805
	前年度取入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B	788,578

【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)		3,033,966
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a	2,590,680
	ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	443,286
	返礼品等の調達に係る費用	348,122
	返礼品等の送付に係る費用	80,814
	広報に係る費用	12,110
	事務に係る費用	2,240

佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)	8,315,716
-------------------------------------	------------------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)

<https://momsmile.jp/about/outline/>